罐詰の保険部として初代 の森庄治郎氏が創業し

蒲鉾」をはじめ、 業は伝統的食品の「竹輪

げていた。特に水産加工 数の漁港として発展を遂

の生産高を挙げていた。

大正時代に入ってもその

の日露戦争当時は全国

モリ保険事務所は大正

## 東日本大震災大火、空襲、チリ津波 の災害を

理店経営をいかに継続してきたのか。その歴史と現状を探る。 8年)気仙沼鹿折(ししおり)に創業したモリ保険事務所は、 継いでいる。東日本大震災で甚大な被害を受けたこの町で、代 来年、創業55年を迎える。現在、3代目となる森雅志氏が後を 場の基幹産業の衰退もあった。そうした中、大正7年(191 害や太平洋戦争などの被害も数知れず、また、漁業を含めた地 弄(ほんろう)されてきたはずだ。気仙沼に至っては、自然災 の間には代理店もさまざまな時代の荒波をかぶり、その中で翻 百年続く代理店の秘密はどこにあるのか。一言、 "顧客のために"を追求してきた結果といえるが、1世紀 "地域密

らなかった。



#ED

鹿折中学校に残されていた 初代森庄治郎氏の写真

があったことから名付け は、良質の水がわく井戸 ためた屋号「まるみず」 当時、気仙沼は国内有 明治37年(1904年) そうした産業の一つで、 から38年(1905年) れていった。罐詰工業も 日本各地や外国へと送ら まな加工品がこの港から

許された代理店地元名士だけに

開通しておらず、 4円と飛躍的に拡大して 8308円から9万30 にかけて、生産高は6万 4年 (1907年) から 余韻は続いており、明治 大正10年(1921年)

> 割を果たしていたが、馬 段としては汽船がその役 は、昭和4年(1929 車や人力車も重要な交通 年)まで待たなければな 沼に鉄道が開通するの

行っている。そのいきさ で、数社が出資して設立 を営む予定だったが、石 った三菱海上火災から、 海上火災に代理店登録を たからだ。本来は石油業 はどうかとの依頼があっ つについては、大正期、 耀詰工場で取り引きのあ 口油業か保険業を営んで モリ保険事務所は三菱 地元の企業家たちが

参集して会合を持ったも 険業であれば1社だけで のの、意見がまとまら 事業が行えるというのが ず、時間的な制約もあっ て保険業を選択した。保

数は少ないものの、 社長の森雅志氏が生まれ 売だからだ。それは、 から多額の現金を扱う商 かつて地元の名士にしか という。保険代理店は、 かで懐の広い人物だった 笑顔を絶やさない、穏や れるところによれば、口 る前に急逝していること 物像についてはよく分か による。しかし、伝えら っていない。それは、現 初代の森庄治郎氏の人

理由だ。

も分かる。 TA会長を数期にわたっ ら、鹿折中学校の初代P て任されていることから

9年)の大火は

が顧客とのきず昭和4年の大火 な深める

りわけ昭和4年 (192 なく大きな災害に遭遇し てきた。その中でも、と 心とした周辺一帯が焼け った。この火災で港を中 歴史に残る甚大な災害だ ( ) ( ) 気仙沼

気仙沼は過去、幾度と

が現在も脈々と続いてい 創業以来の顧客との関係

昭和5年ごろの気仙沼鹿折地区 『けせんぬま写真帖』(気仙沼商工会議所)より の評判を生 は、気仙沼 らだ。大正か 気に伸びたか み、契約が 火の際の素目 ら昭和、さら い対応が顧客 い保険金支払 客の中には、 代にわたる頭 に平成へと3

日本が海外へ進出する

余儀なくされた。

気仙沼全滅とも言われた昭和4年の気仙沼大火 『けせんぬま写真帖』(気仙沼商工会議所)より

> 頭上に 突如グラマンが 終戦まで6日

盛で、まさに生き地獄の 前四時ごろ、もっとも旺 にまで延びた。それが午 の五十鈴神社まで延焼。 し、魚町全体から神明崎 火魔はさらに入沢、太田 様相であった」とある。 モリ保険事務所では、

保険の契約が多い。それ る。保険の種別では火災 トさせた。

はこの日、真珠湾を攻撃 の約束は覆された。日本 日、そうした将来の繁栄 は黄金期を迎え、繁栄の に連れ、鹿折の罐詰工場 た。しかし、昭和16年 途をたどるはずだっ 1941年) 12月8

昭和4年の

仙沼経済に大きな打撃を 0万円の被害を出し、気 4923人、損害額70 焼け、罹災(りさい)者 野原となり、903戸が

商工会議所)より

『けせんぬま写真帖』(気仙沼

ン同型機米戦闘爆撃機グラマ

あおられ魚町一丁目、大 町から火の手があがっ た。およそ二十
がの風に 帖」によると、「大火は 行した「けせんぬま写真 十分ごろ、町の中央、横 |月二十三日午前零時| 気仙沼商工会議所が発

も同様に2代3代と続く

もかかわらず火の手はさ 中通南町一帯を焼き尽く らに中山通・新中山通 員して必死の消防活動に ポンプ、腕用ポンプを動 堀町へと延焼した。蒸気 なっている。

治郎氏が保険業を営む傍

業者も増え始めた。当 となったことで水産加工 され、地下水利用が自由 た。掘り抜き井戸が開発 あり、入住者が急増し あった気仙沼鹿折地区は の後、モリ保険事務所の 保険事務所の母体である 場が20軒以上あり、モリ 地域整備が進んだことも 新たなビジネスをスター 森罐詰の工場もカキのボ 時、鹿折には大規模な工 昭和4年の気仙沼大火 ル煮を開始するなど、

同じくして、気仙沼でも 大規模な空襲が始まっ 原爆が投下された。日を 広島、同9日には長崎に 利となる中、8月6日に 戦況は刻々と日本の不

仙沼市史』(気仙沼 工会議所)、『気仙沼町 ぬま写真帖』(気仙沼商 市)、『雲はかえらず』 誌』(気仙沼町)、『気 【参考文献】『けせん

時に保険金をすぐに受け 代と代替わりし、代理店 客もある。顧客が2代3 ならない」と、代々その た。その礼を欠かしては 取ることができて助かっ 言葉を受け継いでいる顧 突き進んでいった。それ よると、森罐詰の主要製 秀でていた。昭和17年 品は、鮪油煮、鯖水煮、 でも、森罐詰の生産量は (1942年) の記録に

保険事務所が1世紀にわ たって継続し得た基盤と ることが、気仙沼でモリ がれてきた。過去のきず とに信頼が脈々と受け継 中で、それぞれの世代ご なが風化せずに残ってい の造船鉄工所や運送会社 昭和十七年、県内業者が た。国や県の命令による 業合同政策を強いられ などを一つにまとめる企 戦時下の名の下に、多く 詰工場も戦争という巨大 かの多くの罐詰工場の1 よって合併した。 気仙沼 図ろうとして現物出資に 沿市史に目をやると、 業合同に向かった。気仙 沼では罐詰業界自らが企 ものが多かったが、気仙 いった。太平洋戦争では な渦の中に巻き込まれて れ、モリ保険事務所と罐 の開きがあった。 台同し、経営の合理化を 界が不況となったため、 **力箱からすると、約4倍** には森真缶詰工場を出張 輸出缶詰が停止して業 戦況が厳しくなるにつ

罐詰は当時、地域をまと め、軍需産業への協力を (戦争体験を記録する (つづく)

鰹味付罐詰などで年に4 **万箱を生産している。ほ** 周辺上空に飛来、爆弾投 の両日、米空母レキシン 米機は、カキ樽を燃料の 的にされた。9日と10日 なっていたことから、標 う)な攻撃の光景は獲物 射は住民を震え上がらせ 速性に優れたグラマンに も残っている。急降下加 ドラム缶と間違えて攻撃 工場も軍需産業の一つと 松根油工場のほか、罐詰 た鹿折地区には航空機の 笑う顔さえ見えたと証言 いう人や、パイロットの に迫る猛禽のようだった た。その執拗(しつよ よる超低空からの機銃掃 したのではないかとの話 下と機銃掃射を行った。 機グラマン数機が気仙沼 燃料となる油を精製する トンから離陸した重戦闘

のであった」とある。森 同工場に統合集結したも 所とし、 各工場の設備を 終戦まで、後6日の出来 する人もいた。 し、その後の希望まで打 事だった。戦争は多くの たまま殉職したという。 撃を受けてホースを握っ たっていた消防班員が爆 場も爆撃で吹き飛ばされ 火の海と化し、森罐詰工 た。当時、消火作業に当 人命を奪い、産業を破壊 爆撃は鹿折地区周辺を

モリ保険事務所のあっ 会)、『鹿折の歴史』



